

発話区間検出コンポーネント
(M231Detection)
ユーザマニュアル

目次

1. はじめに.....	4
2. 概要.....	4
3. 開発・動作環境.....	4
4. 制約事項.....	4
5. 発話区間検出コンポーネントの使用手法.....	5
5.1. コンポーネントの起動.....	5
5.2. コンポーネントの実行.....	6

図・表目次

図 1 ディレクトリ構成図.....	5
図 2 コンポーネント接続図.....	5
図 3 InDetectionTypeComp 実行画面.....	6
図 4 発話区間検出結果ファイル(result.xml).....	7
表 1 開発・動作環境.....	4

- 改訂履歴 -

Ver.	更新日	改訂内容	改訂
1.0	2009/01/16	初版	イーガー
2.0	2010/07/27	OpenRTM1.0.0 対応	イーガー

1. はじめに

本書は、RT ミドルウェア上で動作する RT コンポーネント「発話区間検出コンポーネント」の使い方について示します。

2. 概要

発話区間検出コンポーネント(以下本コンポーネント)は、入力された音声波形データ／顔特徴点情報を元に発話区間情報を生成、発話区間情報付き音声波形データを出力します。

3. 開発・動作環境

発話区間検出コンポーネントの開発・動作環境を示します。

OS	Ubuntu 10.04	WindowsXP SP3
開発ツール	gcc 4.4.3 (Ubuntu 4.4.3-4ubuntu5)	Visual C++ 2008 Express Edition
使用ライブラリ	OpenRTM-aist-1.0.0-RELEASE	OpenRTM-aist-1.0.0-RELEASE
ツール	eclipse (RTSystemEditor にて使用)	eclipse (RTSystemEditor にて使用)

表 1 開発・動作環境

4. 制約事項

5. 発話区間検出コンポーネントの使用法

本章では、発話区間検出コンポーネントの使用法を、テストコンポーネントを使って示します。

5.1. コンポーネントの起動

各コンポーネントの起動方法を説明します。なお、あらかじめ PC のマイク入力端子にマイクを接続しておいてください。

1) コンポーネントの起動準備

各コンポーネントは、Windows, Ubuntu ともに『図1 ディレクトリ構成図』に示すように配置し、【任意のディレクトリ】より起動するようにしてください。

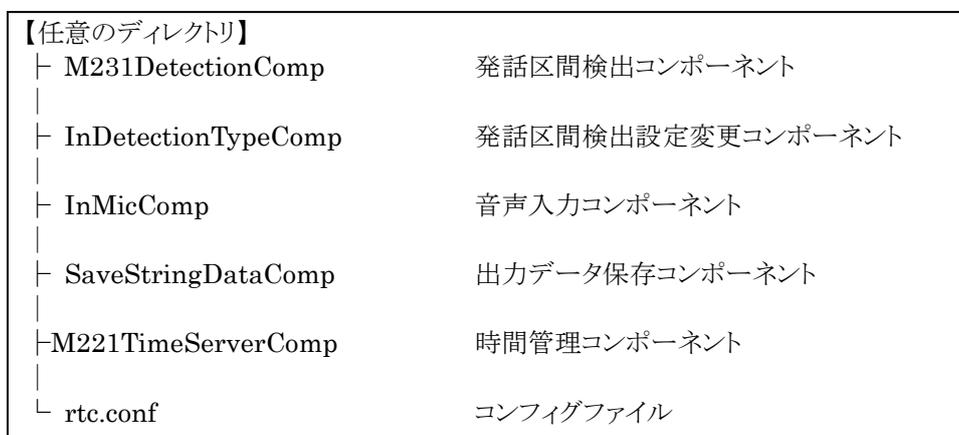


図 1 ディレクトリ構成図

2) 接続

RTSystemEditor を起動し、各コンポーネントを次の図のように接続します。

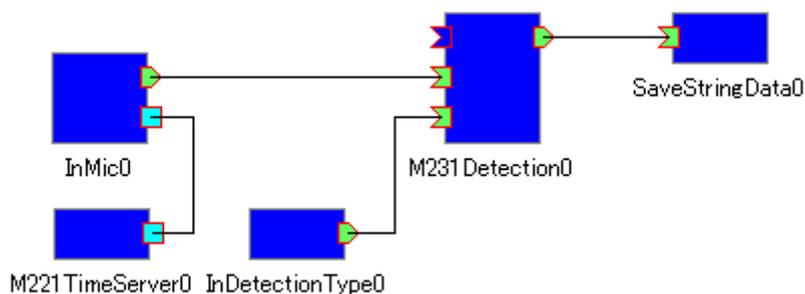


図 2 コンポーネント接続図

3) 起動・設定

RTSystemEditor の右クリックメニューから All Activate を選択します。

5.2. コンポーネントの実行

各コンポーネントの実行・操作方法を説明します。

- 1) 発話区間検出設定変更コンポーネント『InDetectionTypeComp』を起動しているターミナルに、『図3 InDetectionTypeComp 実行画面』のような入力画面が表示されます。ここで、“2”を入力します。



```
Select Detection Type :
0 : detection none.
1 : face detection only.
2 : speech detection only.
3 : all detection.
2
Select Detection Type :
0 : detection none.
1 : face detection only.
2 : speech detection only.
3 : all detection.
```

図 3 InDetectionTypeComp 実行画面

- 2) マイクから入力された音声に対し発話区間情報の付加された、『図4 発話区間検出結果 (result.xml)』に示すような出力結果が、『SaveStringDataComp』より出力されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="euc-jp"?>

<listen>
<time>
<hour>10</hour>
<minutes>38</minutes>
<seconds>51</seconds>
<milliseconds>779</milliseconds>
</time><counter>265</counter><vad>111111111111111111</vad>
<data>lGGRAZkBJgGYAY4BaAF3Ab8BnQFjAYkBlgF4AXIBdgFZAWABigGJAXMBeQGhAaIBiQGcAawBogGc
AZYBogHLAboBmgGzAbsBvAG5AbIBzwG/AawBoQGfAZcBwgGAAXABdwGAAXoBaQFVAVwBYwFzAWABT

————< 中略 >————

lAOEA4wDnAOYA5wDrAPAA5wDsAOwA5gDbANYA4QDcANMAzwDGALkArwCyALUAsACqAKwApwCcAI
0AhwCFAIYAhAB3AGwAYgBaAFgAUABPAEQAPwA+ADkAPQA7ADYANgA3ADUAOWBAAEMAPgA3ADM
AMwA2ADYAMQAqADAALQajAA==</data>
</listen>
```

発話区間情報



図 4 発話区間検出結果ファイル(result.xml)

以上